

第10回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議 事 概 要

開 催 日：令和7年 3月17日（月）

時 間：15：00～17：00

場 所：京都国道事務所5F会議室

1. 京都国道事務所における混雑の見える化・観光の分散化

- 事務局より、秋の観光シーズンにおける京都国道事務所の取組みとして、京都観光デジタルマップ (Kyoto Smart Navi) の事業概要について説明を行った。
- 観光客の動向変化を踏まえた委員からの主な意見は以下のとおりであり、今後、京都市や京都市観光協会と連携しながら検討を進めていく。
 - 観光客の情報収集もデジタル化する中、京都の案内方法や検索・行動データの活用が重要な課題となっている。インバウンド増加による観光客の変化を即座に把握し、データを戦略的に活用して新たな施策に反映するため、デジタルマップのフィードバックも有効に活用してほしい。
 - デジタルプロモーションにおいても、行動や意思決定に関するデータが入手できれば、今後の情報発信戦略に活かすことが可能である。今後、予約・決済機能などを統合する場合、これらの利用状況も把握し、戦略の検討に役立てて頂きたい。

2. 京都市における観光課題対策の紹介

- 事務局および京都市より、京都市が秋の観光シーズンに実施した観光課題対策の概要とその取組結果について説明が行われた。
- 京都市が抱える観光問題の解決に向けた委員からの主な意見は以下のとおりであり、今後、京都市とも連携しながら検討を進めていく。
 - 今年度は様々な方策を実施して、その効果を確認する段階だと認識しているが、次のステップとしては、どの方策が有効かを見極めることが重要である。その上で留意すべき点は、①効果の過大推計、②複数の施策による複合的な効果、③目標値の設定である。実際にどの方策が効果があるかを正確に把握することができれば、効果的な方策に集中することができる。
 - 交通渋滞対策としての目標設定は悩ましいところであるが、実際の市民生活や経済活動への影響はできるだけ減らしつつ、観光シーズンに低下している旅行速度を通常時と同程度に戻すことを目指すような目標設定が理想である。
 - 万人に効く方策はなかなか存在しないので、ターゲットとなるペルソナをある程度想定し、そのターゲットに効果的な施策を作り上げていく必要がある。
 - 複合の施策を組み合わせることも重要であり、観光地の分散化とパーク＆ライドを組み合わせ、京都市の周辺地域で実施すれば、より効果的ではないかと考えられる。
 - 京都市外から流入する主要道路の交通量を常に把握し、施策効果を検証することが望ましい。

3. 秋の観光シーズンにおける取組結果の報告

- 事務局より、デジタルマップによる観光客や交通への影響を検証した結果について報告を行った。
- 検証結果を踏まえた委員からの主な意見は以下のとおりである。

- 観光政策を量から質へ大きく変えていくことは重要である。ただインバウンド増加を止めることは難しいので、インバウンドに対してどのようにアプローチして誘導させるのが鍵となる。質へのシフトが進む中で、観光客の来訪状況や、検索・行動データを収集・蓄積し、より精緻な分析ができれば、混雑解消だけでなく、滞在経験の質の向上にも繋がると考えられる。
- 今回提示されたデータから、交通量と速度の関係性が導き出すことができ、エリアごとに速度目標を設定すれば、交通量や分散量の目標も設定できるはずである。論理的かつ定量的な設定できると、どれだけ分散させる必要があるかを明確に説明でき、目標達成の可能性も示せると考えられる。
- 人流データはあくまで推計値であるため、交通量や公共交通機関の利用者数なども踏まえた上で、分散効果を適切に検証する必要がある。誤解を生まないよう、今後はデータの捉え方についても議論を深める必要がある。
- 人口減少社会の中で、京都市だけでなく、全国的に国内観光客が減っていることを認識しておく必要がある。

4. 意見交換（今後の方向性について）

- 今後のデジタルマップの展望や課題解決に向けた方向性について、意見交換が行われた。
- 委員からの主な意見は以下のとおりであり、今後、京都市と連携しながら検討を進めていく。
 - 来年度は、より効果的な施策を見極めていくことになると考えられる。効果を見える化することは、効率的でない方策を見直し、停止するためにも重要である。
 - 4月から大阪・関西万博が開催されるが、その来場者が京都にも訪れる可能性があるので、場合によっては、秋の観光シーズン以外の対策も必要ではないか。
 - デジタルマップの中で、移動手段に関する情報が車や徒歩に偏っているように見えるので、バスや鉄道、レンタサイクルなどの情報も充実させる必要があるのではないか。
 - 車の情報が手厚ければ、車で訪を推奨しているという誤ったメッセージに伝わりかねないので、「歩くまち京都」アプリとの連携や役割分担について検討していきたい。
 - パーク＆ライドは当初よりかなり普及したが、近年は伸び悩んでいる実態がある。今後は、継続的かつ高度な仕組みに向けて引き続き検討していただきたい。
 - 流入抑制の理想像を一般の方々にどう示していくべきかを考える必要がある。車で来訪しないことが最も望ましいが、車で来訪するのであればパーク＆ライド、体が不自由な方が同行している場合には駐車場の予約を促すといった、段階的な情報発信が重要である。
 - 京都観光デジタルマップを観光客だけでなく、京都市民や観光目的でない来訪者にも利用してもらい、観光客との摩擦を減らす情報発信にも活用して頂きたい。京都市民にも、場所や時間帯の分散を促し、より賢く行動してもらうことも重要である。プラットフォームとして発展の可能性はまだあると思うので、その使い道を広げていくと良い。
 - 今年度は情報発信を行うための基盤が整った段階だと思う。今後はデータを検証しながら、効果のあるものと、そうでないものを見極め、より良いプラットフォームに作り上げて頂きたい。